

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770402592		
法人名	有限会社 矢吹薬局		
事業所名	グループホーム羽音 ユニット羽		
所在地	福島県いわき市常磐水野谷町千代鶴176-1		
自己評価作成日	令和2年5月22日	評価結果市町村受理日	令和2年8月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・「常に笑顔で接する」「ダメと言わない介護を目指す」を現場スローガンとして実践している。 ・身体拘束しないよう意識してスタッフ同士話し合っている。 ・日曜日を清掃重点日とし、環境整備に努めている。 ・2名の往診医師による往診が月2回、正看護師による訪問看護が週1回あり、24時間いつでも連絡が取れるので、医療面での不安は少ない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「出会い・触れ合い・関わり合い」の3つの「あい」を理念とし、スタッフの目の届くところに掲げて、常に意識しながらすべての方との交流を大切にしている。また、ミーティングで理念の再確認をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に属し、回覧板に施設の行事や運営推進会議の議事録を載せ、ホームへの理解を深めてもらえるよう努力している。地域の行事や清掃に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの実践や取り組みを運営推進会議で話し、理解してもらえるようにしている。スタッフ不足もあり、散歩や買い物に行く頻度は低く、地域の方との交流はボランティアの来訪程度になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的開催してメンバーさんに自由に発言してもらい、助言やアドバイスをいただきながら、サービスの向上に活かしている。議事録は家族全員に送付し、スタッフがいつでも見られるようにしている。地域の方々には回覧板で報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらい、情報交換や助言をいただいている。必要に応じて介護保険課や関係部署に問い合わせ、助言をもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「ダメと言わない介護」をスローガンに掲げ、毎月のミーティングで拘束廃止についての勉強会を開いたり、実践について話し合いを行い、自分たちの介護に拘束はないか意識するよう努めている。外部に研修があるときは、スタッフに余裕があるときに積極的に派遣するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングで勉強会のテーマに取り上げたり、日常のケアの中でなにか虐待に当たるかなどを話し合い、実践しようと努めている。また、日常での観察、入浴時の身体チェックをしている。スタッフに余裕があるときは、できるだけ外部の研修に参加してもらい、学ぶ機会を得られるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月のミーティングで勉強会のテーマに取り上げているが、制度の利用までは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学を勧め、納得したうえで、管理者と計画作成担当者が説明して契約している。介護保険の改定の際も、報告、説明し、必要に応じて同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に直接家族と話し合い、希望に添えるよう努力している。家族参加のイベント後に懇談会を開いて、自由に発言してもらい、意見を反映するよう努めている。苦情箱を設置し、いつでも誰でも苦情を申し立てられるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで互いに意見を出し合い、スタッフの総意として決定している。日常的に話し合う機会を作っており、スタッフ同士で話し合いながら、意見やアイデアを提案するようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業主は昇給や手当の増額で対応している。スタッフ間では、ミーティングの中で業務の見直しや負担軽減のための話し合いをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングの中で毎回テーマを掲げて学ぶ機会がある。書籍も購入されており、自由に借りることができる。スタッフ不足もあり外部の研修にはなかなか派遣できていないのが現状。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会員として各地区の研修会に参加し、情報交換や交流をしているが、スタッフ不足もあり、研修会への参加機会が減っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフ間で情報を共有し、入居者の想いや過ごしやすい環境づくりを心掛けている。また、希望に沿った支援を心掛け、安心して生活してもらえるよう努めている。状況の変化に合わせて話し合い、対応を見直している。入居初期の関わりは慎重に行い、一対一で接したり、本人の声にしっかり耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の初期説明の際に、家族の希望や心配事を聞き取り、入居後のサービスにつなげている。同時にホーム側の考え方も伝え、双方の話し合いによって、より良い関係が作れるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の様子はこまめに家族に伝え、意見を聞いて対応している。ミーティングやスタッフ間での話し合いを行い、何が必要なのか考える機会を多く持つようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならず、また、命令や指示にならないよう、言葉遣いに気を付けながら、親しみを持ってもらえるような関わりを心掛けている。日々を同じことの繰り返しにならないように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間に制限はなく、家族と入居者が安心して過ごせるよう努力している。面会時に入居者の状態を報告し、要望があるときはできる限り希望に沿うようにしている。また、家族と入居者をつなぐ役割をして、一緒に支えるという意識を持つようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族同様、友人関係の方などでも自由に面会したり、イベントに参加してもらえるようにしている。入居時に生活歴を記入してもらったり、本人から聞くなどして、馴染みの人や場所を把握するよう努めている。こちらから出掛けていくことは、スタッフ不足もあり難しい状況になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやイベントで入居者同士の交流を図っている。スタッフから働きかけ、一緒に作業したり、会話を持つことで孤立しないよう心掛けている。入居者同士のトラブルにはスタッフが介入し、良い関係が持てるようにしている。誕生会を開いて全員でお祝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡時には必ず葬儀に参列し、退去後も家族の相談を受けたり、運営推進会議のメンバーとして残って頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、入居後のデータや本人、家族からの情報を活かせるようまとめて、いつでも見られるようにしている。また、スタッフ間で話し合い共有している。本人の意見に耳を傾け、スタッフの考えを押し付けないよう注意しながら、楽しく過ごせるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や情報、家族からの情報をスタッフ間で共有し、把握している。また、関わりの中でも見つけていけるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の支援経過に、その日の出来事を記録している。些細な変化も記録し申し送るなど、小さな変化に気づくことを大切にしている。1日2回のバイタルチェック、状態の変化や処置の方法なども申し送って、対応を統一している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的な話し合いや、毎月のミーティングで意見を出し合い、対応を決めている。対応の変更については、家族にも面会時などに説明している。急を要するときは電話で対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や支援経過に記録を残し、スタッフ間で話し合いながら情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を聞き、スタッフ間で話し合いをして、現状に合わせたケアを実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを受け入れ、入居者の生活に変化をつけるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2名の主治医による往診体制を作り、体調変化についてはすぐに報告して指示を受けている。往診メモを利用し、報告に漏れがないようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携による、週1回の訪問看護時に、日常の細かい変化を報告、相談している。訪問看護の判断で主治医に報告もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医が入院の必要ありと判断した場合は、主治医自ら手配、紹介してくれている。入院中はたびたび面会し、病院関係者から細かい情報をもらったり、退院後のケア等の相談もしている。居室が空いたときは、医療機関に電話して、入居者募集の相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で、終末期をどこで迎えるのか確認を取っており、その後の状況変化で変更してもよいことになっている。主治医、家族、ホームで話し合い、家族の意向に沿えるようにしている。見取りのホーム指針を説明し、インフォームドコンセントで本人の状態を説明し、同意をもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医と24時間いつでも連絡が取れる環境にある。AEDを設置し、心肺蘇生の研修も実践的に行い、急変や事故発生時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を消防署立会いの下で行っている。ミーティングでも、各災害に応じた対策を定期的に行っている。2階天井上に倉庫があり、災害時に必要なものを備蓄してある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性に合わせた声掛けを行い、プライバシーや人格を傷つける声掛けをしないよう心掛けている。個室によりプライバシーを守っており、入室するときもノックと声掛けを行うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人の希望に添えるよう、積極的にコミュニケーションを行うよう心掛けている。自己決定できない方でも、できる限り思いを引き出す努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムやペースに合わせて、起床時間をずらしたり、居室で食事してもらするなど、なるべく決まりや都合を優先せず、本人の希望に沿った対応ができるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や季節に応じた服装をできるだけ本人の好みで選んでもらっている。自己決定できない方は、本人の好みを反映したものを選ぶようにしている。髭剃りや爪切りなど、衛生や清潔感にも気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理への参加が難しい方が多くなっているが、食器を拭いてもらうなど、関連した作業に関わってもらっている。食材を説明したり、四季に応じた食材で彩りを加えることで、興味を促している。できるだけ自力での摂取を促し、楽しみながら食べもらえるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のトータル水分量を時間に分けて摂取してもらっている。本人が望んだり、必要と判断したときは、随時摂取してもらっている。本人の状態に合わせて食形態や食器を変更し、自力で食べられるよう配慮している。緑黄色野菜を中心に、バランスのとれた食事作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、歯磨きやうがいをしている。歯磨きが難しい方は、ガーゼでのふき取りやスポンジブラシを使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易におむつは付けず、スタッフ間で話し合っ対応を決めている。自分で行けたり、立位可能な方はトイレで排泄してもらい、本人の望む形での排泄を心掛けている。表情や行動で声をかけ、本人のタイミングで行けるようにしている。排泄チェック表で確認し、排泄パターンに合わせて誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションで運動を取り入れたり、こまめな水分摂取、緑黄色野菜を中心とした食事を食べてもらうなどしている。便秘が続く方は、主治医に相談し、下剤を調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や気分に合わせて、できるだけストレスなく入浴できるよう心掛けている。入浴拒否が強い方には、清拭とドライシャンプーで対応し、無理強いにならないよう注意している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態、体調に合わせて休んでもらっている。声掛けや関わりを多く持ち、夜間眠れるような働きかけを行っている。寝不足が続いて心配されるときは、主治医と相談して睡眠導入剤を内服してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに入れ、いつでも確認できるようにしている。誤薬がないよう三重チェックを行っている。錠剤の内服が難しい方には、ゼリーやヨーグルトを使用して、確実に内服してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭に出て日光浴や散歩をしたり、レクリエーションで体を動かしたりして、できるだけ楽しめるよう工夫している。好みの音楽を聴いてもらったり、一緒に歌ったりして気分転換をしてもらっている。また、日常の家事手伝いをお願いするなど、できることはできるだけやってもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフ不足もあり、中庭やベランダに出での散歩、日光浴をしてもらっている。日常的な外出支援は難しいので、家族に協力してもらい、外食に行ったり、お祝いに参加してもらっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理をするのは難しい。家族同意の預かり金を事務所で管理し、必要があればそこから使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年家族あてに年賀状を書いてもらうようにしている。電話を施設内に置き、いつでも利用できるが、利用はほぼない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけや行事ごとの写真を掲示。手作りカレンダーを貼り付けして、少しでも楽しんでもらえるようにしている。温度、湿度をチェックしながら、エアコン、除湿器、加湿器を使用している。日曜日を清掃重点日として、清潔と衛生に気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビを見たり、音楽を聴いたり、塗り絵をするなどして、思い思いに過ごしている。居室で写真を見て過ごしたり、自由に休んだりしている。座る場所は本人の好みで選んでいる。仲の良い入居者同士が過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	なじみの品を持参していただいたり、家族写真や手紙など、自由に飾っている。動きやすいようベッドの配置も工夫している。本人や家族の好きなように、自由に使用してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで手すりも多用している。居室に表札を飾り、場所がわかるようにしている。トイレや浴室など、迷わないよう表記し、見守ったり、付き添ったりしながら、自由に活動してもらっている。		